

**中学校外国語科との円滑な接続を図る
小学校外国語活動**

千葉県総合教育センター

はじめに

社会や経済のグローバル化の進展もあり、学校における外国語教育を充実していくことが大きな課題とされています。小学校では学習指導要領の改訂にともない、外国語活動が新設され、第5学年及び第6学年で平成23年度から全面実施することとなりました。実施にあたっては、小学校段階で外国語に触れたり、体験したりすることにより、中・高等学校におけるコミュニケーション能力の素地をつくることが重要と考えられています。一方、学習指導要領の改訂前から多くの小学校で外国語教育に取り組んでいますが、実施状況には、ばらつきがあるとの指摘もあります。

そこで、研究にあたっては、小学校外国語活動と中学校外国語科の接続についての現状を把握するとともに、「円滑な接続」の在り方を考察することとしました。研究を進めるにつれて、コミュニケーション能力の素地の形成や小・中の接続を意識した取組とともに、小・中接続のための体制づくりや、外国語を学び続けていく児童の意識の向上も重要であると考え、まとめるようにしました。また、先進的な学校の訪問を通して、多くの資料を得ることができ、ここに研究の報告として冊子を作成することといたしました。ご協力いただいた多くの関係者に感謝申し上げますとともに、多くの学校で参考にしていただけたら幸いに存じます。

(参考文献)

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領』 平成20年3月
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 平成20年8月
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成20年3月
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』 平成20年7月
- ・文部科学省 『英語ノート1』
- ・文部科学省 『英語ノート1 指導資料』
- ・文部科学省 『英語ノート2』
- ・文部科学省 『英語ノート2 指導資料』
- ・文部科学省 『小学校外国語活動研修ガイドブック』(旺文社) 平成21年
- ・文部科学省 『小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)』 平成22年
- ・中央教育審議会『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)』 平成20年
- ・愛知県総合教育センター『平成21年度研究紀要 第99集 小中連携による外国語活動の在り方に関する研究』
- ・静岡県総合教育センター『平成20年度研究紀要 第13号 学校英語教育における異校種間連携の推進及び充実のための研究－連携への具体化実践事例を糸口に－』
- ・茨城県教育委員会『外国語活動 HOP! STEP! JUMP! 小学校における外国語活動指導の手引き』 平成21年3月
- ・茨城県教育委員会『平成21年度 外国語活動における教材の効果的な活用及び評価の在り方に関する実践研究事業実践報告』 平成22年3月
- ・岩手県立総合教育センター『校内研修プログラム 小学校外国語活動推進の手引き』 平成21年
- ・八戸市総合教育センター『平成21年度研究紀要 No.31』 平成22年2月
- ・松川禮子・大下邦幸 編著 『小学校英語と中学校英語を結ぶ－英語教育における小中連携－』(高陵社出版) 2007年
- ・松川禮子・大城賢 共編著 『現場の先生をサポートする 小学校外国語活動実践マニュアル』(旺文社) 2008年
- ・菅正隆 編著 『すぐに役立つ! 小学校外国語活動ガイドブック』(ぎょうせい) 2008年
- ・菅正隆 編著 『小学校英語 わいわいガヤガヤ玉手箱』(開隆堂) 2009年
- ・卯城祐司・蛭田勲 著 『平成20年改訂小学校教育課程講座 外国語活動』(ぎょうせい) 2009年
- ・村川雅弘・池田勝久 編集 『小学校外国語活動のための校内研修パーフェクトガイド』(教育開発研究所) 2010年

目 次

I	小学校外国語活動の基本的な考え方	2
1	学習指導要領の改訂（従来の英語活動から外国語活動への転換）	2
2	小学校外国語活動の目標・内容	3
II	外国語活動の現状と課題	4
1	外国語活動の実施状況について	4
2	小・中の接続について	5
III	課題解決の手立て（推進体制を整え授業を改善しよう）	6
1	取組体制の構築	6
	（1）自校における取組体制づくり	6
	（2）連携組織の活用	7
2	研修の充実	8
	（1）相互理解を中心とした研修	8
	（2）指導力向上を中心とした研修	8
	（3）円滑な接続を図るための研修例	9
3	指導法の改善	10
	（1）小・中学校の目標と内容の理解	10
	（2）小・中接続を指向したカリキュラムの作成	11
	（3）小・中学校の学習内容・教具のつながり	12
	（4）クラスルーム・イングリッシュ	13
	（5）英語ノートの活用	15
	（6）ゲームの効果的な利用	16
	（7）聞く・話す力を育てるALTや地域人材の活用	18
	（8）ICTの活用	20
	（9）評価の工夫	21
	（10）外国語活動の環境整備	23
	（11）望ましい小学校外国語活動	25
IV	児童が外国語に興味を持ち、学び続けるために	27
	【資料】円滑な接続のためのチェック表（例）	28
	資料提供校	29

I 小学校外国語活動の基本的な考え方

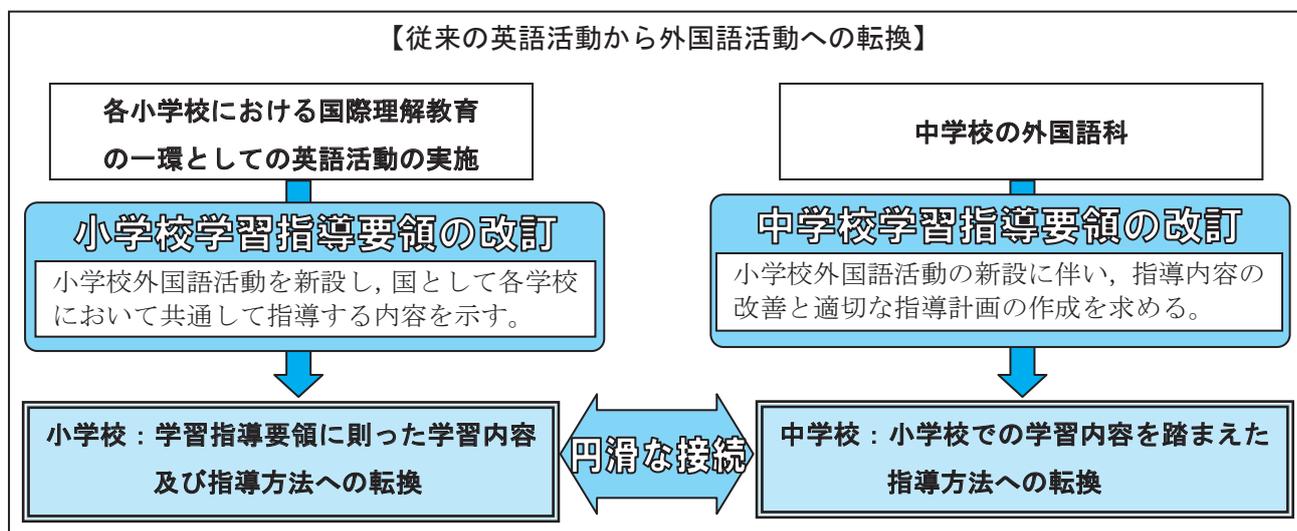
1 学習指導要領の改訂（従来の英語活動から外国語活動への転換）

文部科学省は、中央教育審議会の「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」を踏まえて平成 20 年 3 月 28 日に小学校学習指導要領を改訂し、小学校第 5，6 学年に外国語活動を位置付けた。その趣旨については、次のように述べられている。

- 社会や経済のグローバル化が急速に進展し、異なる文化の共存や持続可能な発展に向けて国際協力が求められるとともに、人材育成面での国際競争も加速していることから、学校教育において外国語教育を充実することが重要な課題の一つとなっている。
- 我が国においては、外国語教育は中学校から始まることとされており、現在、中学校においてあいさつ、自己紹介などの初歩的な外国語に初めて接することとなる。しかし、こうした活動はむしろ小学校段階での活動になじむものと考えられる。また、中学校外国語では、指導において聞くこと及び話すことの言語活動に重点を置くこととされているが、同時に読むこと及び書くことも取り扱うことから、中学校に入学した段階で 4 技能を一度に取り扱う点に指導上の難しさがあるとの指摘もある。
こうした課題等を踏まえれば、小学校段階で外国語に触れたり、体験したりする機会を提供することにより、中・高等学校においてコミュニケーション能力を育成するための素地を作ることが重要と考えられる。
- 小学校段階における英語活動については、現在でも多くの小学校で総合的な学習の時間等において取り組まれているが、各学校における取組に相当のばらつきがある。このため、外国語活動を義務教育として小学校で行う場合には、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要である。

また、同じく中学校学習指導要領が改訂されたが、小学校外国語活動の新設に伴い、次の 2 点を示し、小学校から中学校へと円滑な移行を図ることに配慮するとした。

- 小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されていることを踏まえ、指導内容の改善を図る。併せて、「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。
- 小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成すること。



2 小学校外国語活動の目標・内容

(1) 外国語活動の目標

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

- ・外国語活動の目標をコミュニケーション能力の素地を養うこととし、中学校との連携を図った。
- ・外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点を置いた。
- ・外国語の目標については、学年ごとに示すのではなく、より弾力的な指導ができるよう、2年間を通じた目標とした。

(2) 目標達成のための3本の柱

次の3つの柱を踏まえた活動を統合的に体験することでコミュニケーション能力の素地を養う。

- ① 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

〈コミュニケーション能力の素地〉：小学校段階で外国語活動を通して養われる、言語や文化に対する体験的な理解、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみを指したものである。これらは、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものであり、中学校における外国語科への円滑な移行を可能とするものである。

(3) 外国語活動の内容

- 1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
 - (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
 - (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。
- 2 日本と外国の言語や文化について、体験的に理解を深めることができるよう、次の事項について指導する。
 - (1) 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いも知り、言語の面白さや豊かさに気付くこと。
 - (2) 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。
 - (3) 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。



- ・各学校において共通に指導する内容を国が示し、中学校との円滑な接続を図る。
- ・小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションを通じた外国語活動を実施する。
外国語活動の目標は、英語のスキル(語彙や表現を定着させること)ではなく、コミュニケーション能力の素地を養うものである。

安易に中学校の学習内容の前倒しをすることは避けたい

- ・過度に文字の習得や定型対話を暗記させることは目標にそぐわない。
- ・発音と綴りの関係については、小学校段階で取り扱うのは適当ではない。など

II 外国語活動の現状と課題

研究を進めるにあたって、県内小・中学校の担当教諭や児童生徒を対象に、質問紙調査を実施した。調査した主な内容は、外国語活動の実施状況、小・中学校の連携・接続の現状や教員の意識、児童生徒の外国語の学習に関する意識である。ここで、その概要について述べる。

—H22年千葉県総合教育センター実施「外国語教育における小・中接続に関する質問紙調査」の結果より—
調査数：小学校 122校 5, 6年担当教諭 240名 外国語活動研究指定校5校の児童5年 229名 6年 226名
中学校 58校 外国語担当教諭 57名 上記研究指定校5校の児童進学先中学校1年生徒 508名

1 外国語活動の実施状況について

来年度の完全実施を前に、多くの学校で実施している

本年度、年間30時間以上実施している学校は、5年で78%、6年で77%である。

多くの学校が英語ノートに準拠した指導を実施している

ほぼ毎時間使用は47%、必要に応じて使用は41%である。

英語活動の内容は、英語ノートの内容に準じて、または、内容を参考に学校で決めるは79%である。

主な指導者は学級担任である

主な指導者は学級担任が72%である。

A L Tの配置や地域人材活用は必ずしも十分とは言えない

A L Tが配置され、ほとんどの時間に対応しているのは、5・6年とも59%である。

外国語活動で人材活用をしていない学校は、55%である。

教員は概ね成果をあげていると感じ、児童の意識も比較的高いが改善の余地も見られる

言語や文化への理解が深まってきている79%、積極的にコミュニケーションを図る態度が育成されている80%、外国語の音声や表現に慣れ親しんでいる83%と教員は感じている。

→英語の勉強が楽しい児童は83%である。 (小学5・6年生)

→英語の時間で楽しいことは、ゲーム88%、歌48%、英語で話す31%である。

→勉強してよかったことは、ゲーム64%、あいさつ61%、外国を知る38%である。

児童に興味関心を持たせる工夫はゲーム、歌、A L Tの活用が中心である

ゲーム、歌等86%、A L Tや地域人材91%、に対してICTの活用16%であり、内容の工夫に関する回答はさらに少数である。

小学校の教員は指導上の困難を感じている

指導上困難を感じることもある教員は87%である。

→英語に関する知識技能68%、教材作成等36%、授業計画の作成31%、評価31%、A L Tの配置21%が指導上の困難を感じている理由である。

全校体制づくりが必要である

年間指導計画の作成を主に担当学年がしている学校は43%である。

平成23年度の全面実施に向けて、準備が進みつつある。児童も学習について肯定的に捉えている様子がわかる。一方、指導上の困難を感じている教員が多いことや、体制づくり、研修、指導法の改善などに課題が見られる。

2 小・中の接続について

小学校教員と中学校外国語科担当教員の間には意識差がある

小学校教員：中学校外国語科の学習指導要領の内容について、あまり、まったく知らない 83%

中学校外国語担当教員：外国語活動のねらいを知っている 83%

小学校の英語ノートを読んだことがある 82%

外国語活動の開始を踏まえ、外国語科の指導を改善していくべきだと考えている 78%

小・中接続への取組はこれからの課題である

外国語教育に関する小・中の接続で、相互の授業参観をしている中学校は 39%である。一方 39%が、特にしていないと回答している。

中学校外国語科担当教員は、小学校に英語に関する関心・意欲の育成を期待している

期待することとして、英語が好き 68%、表現の意欲 56%、外国への関心 43%である。

→英語の勉強が楽しい生徒は 80%である。

(中学1年生)

→小学校で学んだことで、中学校の英語で役立ったことは、英語で話したこと 51%、英単語を知ったこと 46%、ゲームをしたこと 46%、英語を聞いたこと 42%、英語に興味をもったこと 32%、外国に興味をもったこと 25%である。

中学1年生への指導で困難な点は個人差への対応や書くことの指導である

指導上困難なことがある中学校教員は 84%である。

→個人差への対応は 63%、書くことの指導は 50%、学校間の指導差は 21%である。

→英語を聞く、話す、読むができるは 70%台、書くは 60%台である。(中学1年生)

小・中接続は相互の理解や研修と組織づくりから始まる

小・中接続の課題として小学校教員は、相互の学習内容をよく知ることが 66%、研修の充実を図ることが 40%である。

中学校外国語担当教員は、相互の学習内容をよく知ることが 60%、小学校によって取り組み方に差があることは 37%、定期的な話し合いの場をもつが 29%、生徒に個人差が生じていることが 29%である。

小・中の接続に関しては、相互の学習内容への理解、連携のための組織づくり、中学校区内小学校間の連携などに課題があることがわかる。

小中の円滑な接続のための視点

指導法の改善：ALTなどの人材活用，ICT機器の整備・活用を進め，児童の発達の段階に合わせ知的好奇心を刺激し学習意欲を喚起し，それを維持向上するため評価方法を工夫していく必要がある。

従来の指導からの転換：学習指導要領に則り学習内容の見直しを行い，小・中学校がお互いの目標やねらいを踏まえた授業を実践する。

小学校外国語活動と
中学校外国語科の
円滑な接続

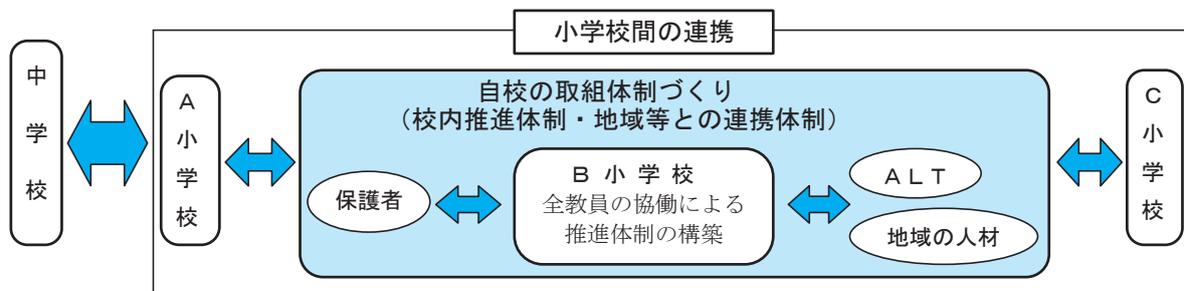
研修の充実：小学校と中学校がお互いの学習内容を理解し，教員の指導力の向上・相互理解を目的に研修会を実施する。

取組体制の構築：全校での取組体制を整備し，保護者や地域との連携を進め，校内体制を整備するとともに，中学校区内における小・中学校による連携組織を構築していく。

III 課題解決の手立て（推進体制を整え授業を改善しよう）

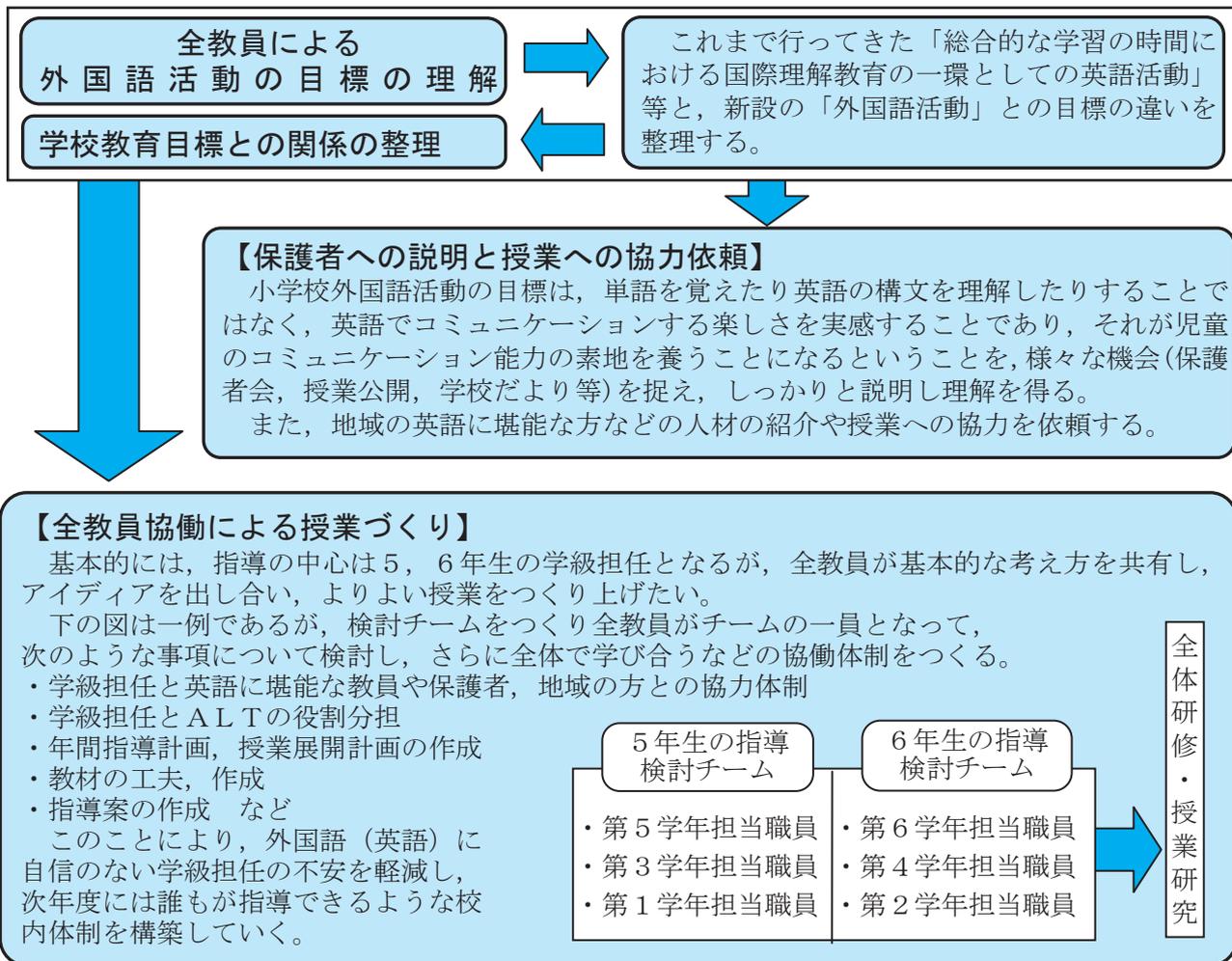
1 取組体制の構築

中学校外国語科の学習に小学校外国語活動を円滑に接続するためには、同一中学校区内小学校間の連携や中学校との連携を図り、共通理解や情報の共有、協働関係の構築などを図ることが不可欠である。そのためには、まず、保護者や地域との連携を含めた本校における全校での取組体制を確かなものにするのが重要となる。



(1) 本校における取組体制づくり

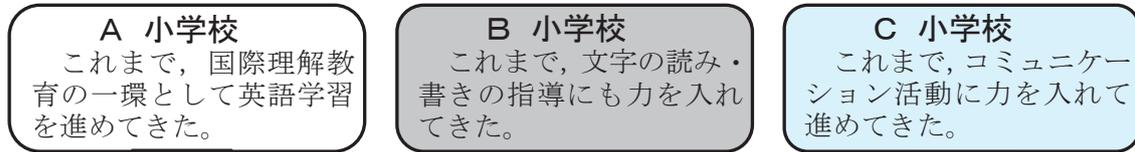
小学校では、全教員が新学習指導要領の「外国語活動」の指導目標や基本的な考え方を十分に理解するとともに、学校教育目標との関係を整理し同じ目標に向かって協働して取り組めるような体制をつくるのが重要である。また、保護者や地域の方々の協力が得られるような体制づくりを進めることも大切である。



(2) 連携組織の活用

○同一中学校区内の小学校間の連携

同一中学校区の小学校でも、すべての学校が一律に同じ条件や方針でスタートラインに立っているとは限らない。各小学校が新設された外国語活動の趣旨に沿った授業を展開し、複数の小学校から中学校に進学した際に、中学校外国語科の学習へ円滑につながっていくよう連携を図りたい。そのための組織をつくり、より効果的な授業を目指し、一体となった取組体制を構築したい。

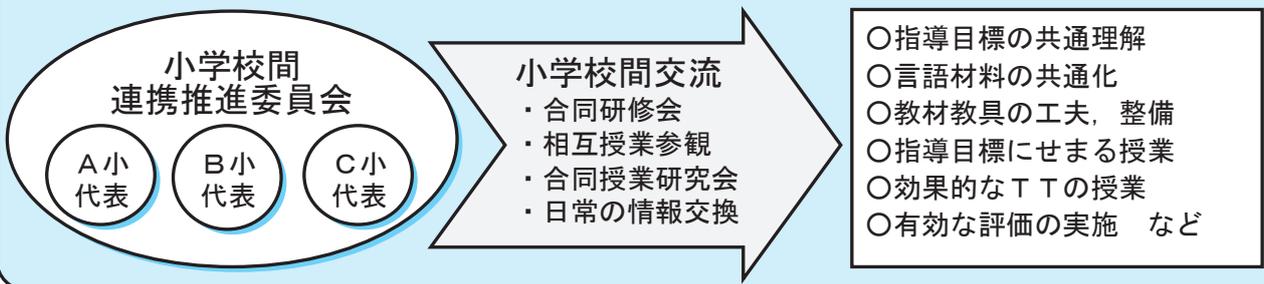


【小学校で新設の外国語活動の目標】 ◎コミュニケーション能力の素地を養う。
 <三つの柱>

1. 外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。
2. 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
3. 外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

【小学校間の連携】

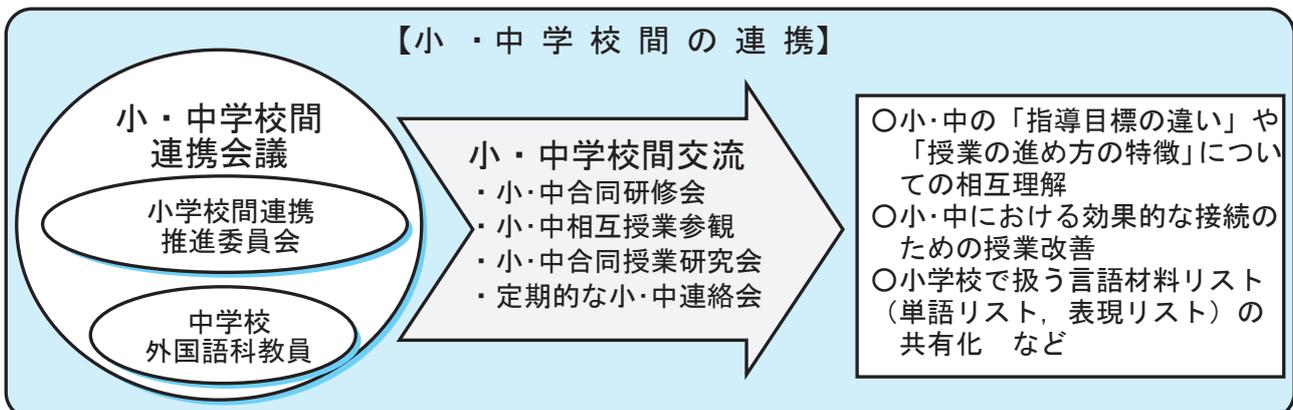
各小学校が「小学校外国語活動の目標」というフィルターを通して自校の外国語活動を見直すとともに、同一中学校区で各小学校の代表者による連携推進委員会などの組織をつくり、基本的な事項や交流活動について話し合う。さらに、全職員が研修会や授業などを通して交流し、協働してよりよい授業をつくり上げる。



○小・中学校間の連携

小学校間連携の基盤の上に立って小・中学校間の連携を図るための組織をつくり、小学校の教員と中学校の外国語科教員が合同研修を行い、小・中の授業の相互理解を進め、小・中学校ともに円滑な接続のための授業改善を図りたい。

【小・中学校間の連携】



2 研修の充実

小学校外国語活動と中学校外国語科との接続を図る際に大切なことは、双方の年間指導計画や指導方法、教材・教具等を相互に確認し、それぞれの取組を通して目指す児童生徒像、目標や内容等について共通理解を図ることである。

そのためには、学校間、教員間のネットワークを作り相互理解を図るとともに、校内における研修体制や指導体制を整え、教員の外国語活動に対する指導力を高めていくことが重要である。

(1) 相互理解を中心とした研修

- ・合同研修・・・・・・・・外国語活動、外国語科のねらいと内容の理解
相互授業参観（小・小，小・中）
評価方法の理解（小・中）
児童生徒、教員へのアンケートの実施
小・中連携したカリキュラムの作成
接続を考えた学習環境，授業環境
英語ノートの活用方法
共通教材の開発（小・小，小・中）
小・中共通のクラスルーム・イングリッシュの選定
ALT，地域人材の活用方法 など

お互いの授業を見合うことにより、口頭の情報交換では見えない児童生徒の様子や指導の実際が理解できるようになります。

・交流活動

- 教員と児童生徒の交流・・・小学校教員と中学生の交流，中学校教員と小学生の交流
- 教員相互の交流・・・・・・・・小学校教員と中学校教員の交流，小学校教員同士の交流

状況が許せば、小学校教員と中学校教員がティーム・ティーチングで授業を行うことのできる体制づくりも大切です。

(2) 指導力向上を中心とした研修

- ・定例の校内研修会の実施・・・外国語活動，外国語科のねらいと内容の理解
英語ノートと中学校教科書のつながり
講師を招聘しての研修会
指導案の作成，校内授業参観・協議会
学習評価についての理解
英語ノートの活用方法
教材教具等の開発 など
- ・外部研修会への参加・・・・・・・・市町村教育委員会主催の研修会への参加
県教育委員会主催の研修会への参加

今後、だれもが外国語活動を指導する担当者になり得るということから、教員全員が積極的に研修に参加できるような環境をつくるのが大切です。

円滑な接続のための研修を行なう際の配慮事項

- ① 小学校外国語活動と中学校外国語科を一連のものとして考える。
- ② 小・中学校間の接続をスムーズに行なうためには、情報共有が必須である。
- ③ 教員間で協力関係を築き、互いに学び合うことによる授業改善に努める。
- ④ 研修体制・連携体制を整えるにあたり、教育委員会等から指導支援を得ることも大切である。

(3) 円滑な接続を図るための研修例

① 中学校区を1つの単位とした研修

- ア 各小学校同士の情報交換
 - ・学習内容や進度，授業参観，教材の共通化など
- イ 小・中学校間の情報交換
 - ・年間指導計画，指導方法，地域人材活用状況，授業参観など
- ウ 小・中連携の研修計画

小学校間の足並みがそろいます。

双方の学習のねらいや内容を理解できます。

月	内 容
5月	・年間指導計画等の確認 ・相互授業参観計画の作成 ・小と小，小と中の情報交換 ・中学校1年生の英語学習の参観
6月	・小学校外国語活動の授業参観と研究協議 ・ALTや地域人材の活用方法 ・評価方法
8月	・小・中共通のクラスルーム・イングリッシュの研修会 ・英語ノート，中学校教科書の内容についての研修会 ・ピクチャーカード等の共通教材(小・小，小・中)の開発
10月	・中学校外国語科の授業参観と研究協議 ・ALTや地域人材の活用方法 ・評価方法
1月	・5・6年生と中学校1年生，教員へのアンケートの実施
2月	・アンケート結果の分析と合同研修会の成果と課題について ・次年度に向けての計画案作成

ワークショップ型の研修スタイルを取り入れるなど工夫し，主体的な研修を行なう。

当該校の校長が協議し，各校の外国語活動，外国語科の担当者が中心となり進めていくこととなります。

② 市町村教育委員会を中心とした研修・・・(鴨川市教育委員会・長狭小学校・長狭中学校の例)

- ア 「英語活動推進委員会」の設置
 - (ア) 市内全小・中学校から代表者(外国語担当者)を集める。
 - (イ) 年間指導計画のモデル作成，検討
 - (ウ) 小・中の接続を意識したカリキュラムの開発
(長狭小学校6年 英語活動年間指導計画からの抜粋)

外国語活動の方向性の共通理解を図ることが大切です。

3 月	
1年間のまとめ(単語ゲーム)	
Bridge Unit	
文字の読み書き	Do you like ~?
あいさつ・天気・曜日	
○カルタ取り	○ビンゴゲーム
○単語のバスケット	○ジェスチャーゲーム
※ゲームのみでなく，児童の実態に合わせて復習の時間にしてもよい。	

小学校6年生と中学校1年生をつなぐ指導計画「ブリッジユニット」を作成し，実施している。

また，「ブリッジユニット」の延長として，卒業後にスプリング・スクールを開き，その中で中学校の英語の授業を体験している。

- (エ) 各小学校の取組や課題等の情報交換の継続化
- イ 「英語活動実践講座」の開催
 - (ア) 小学校全教諭対象(夏季休業中に実施)

3 指導法の改善

これまで小学校では国際理解教育の一環として英語活動が行われていた。平成 23 年度からは、外国語活動として完全実施されることになった背景や経緯を踏まえ、これまでの指導を見直し、外国語活動の目標に迫るために指導法を改善し、指導の充実に努める必要がある。その改善のポイントを、次のように考える。

(1) 小・中学校の目標と内容の理解

外国語活動の目標は、外国語に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養うことである。これが、中・高等学校等におけるコミュニケーション能力の育成につながるものである。

児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するには、外国語活動を通して自分を表現できる経験をもつことが大切である。また、中学校外国語科との円滑な接続を意図した指導が必要である。

中学校の外国語科と小学校の外国語活動の目標と内容を対比することにより、外国語活動の目標と内容を明確に理解することができる。また、中学校とのつながりや違いを考えながら見直しをもって指導することができる。

外国語活動は、知識・技能の習得ではなく、外国語に慣れ親しむことが中心です。学習活動は、聞くこと、話すことがメインです。



【小学校外国語活動と中学校外国語科の目標】

小学校外国語活動	中学校外国語科
言語と文化について 体験的に 理解を深める	言語と文化について理解を深める
積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る	
音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の 素地 を養う	聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の 基礎 を養う

【小学校外国語活動と中学校外国語科の内容】

小学校	中学校
積極的にコミュニケーションを図るために ① 外国語を用いて コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。 ② 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。 ③ 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。	英語を理解し、英語で表現できる実践的な運用能力を養うため、次の言語活動を3年間を通して行わせる。
日本と外国の言語と文化について体験的に理解を深めるために ① 音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付くこと。 ② 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付くこと。 ③ 異なる文化をもつ人々との交流等を体験し、文化等に対する理解を深めること。	ア 聞くこと イ 話すこと ウ 読むこと エ 書くこと の4技能を総合的に育成

(2) 小・中接続を指向したカリキュラムの作成

調査では、中学校1年生への指導の困難な点として、「小学校間の指導差がある」との回答が21%ある。中学校との円滑な接続を考えると、同一中学校区内の小学校によって基本的な取組状況に大きな違いがあることは望ましくない。そのために、各小学校が協力してカリキュラムの作成に取り組む必要がある。次に、年間指導計画を作成するうえでの主な留意点を述べる。

年間指導計画作成の留意点

- これまであった英語活動の指導計画を見直し、**学習指導要領に示された外国語活動の目標、内容**に基づき、聞く、話すといった活動が十分に行えるような計画とする。
- 全国共通の教材である**英語ノート等**を活用する。
- 2年間を通した外国語活動の目標を実現するため、第5学年、第6学年の学習段階を考慮した指導内容を計画的に配置する。

第5学年

児童に身近で基本的な表現を使い、児童の日常生活や学校生活にかかわる活動

第6学年

第5学年の学習を基礎とし、国際理解にかかわる交流等も含んだ活動

- 市町村内または中学校区内の小学校が連携し、年間指導計画の原案を作成する。さらに、中学校の外国語担当教員の協力を得ることが有効である。
- 校内では、第5・6学年担任だけでなく、**学校全体**で児童の実態や地域の実情を踏まえて作成する。

小・中接続を指向して英語ノートを活用した年間指導計画の例

第5学年 外国語活動 年間指導計画

指導の見通しが
もてます。

月	単 元 名	時間	指 導 内 容	英語ノートとの関連
4	世界の「こんにちは」を知ろう What's your name? My name is Ken. Nice to meet you.	①	世界には様々な挨拶があることを知る。	Listen(世界のこんにちは) Play(キーワードゲーム) Activity 1 (国のあいさつ)
		②	挨拶のマナーを知り、積極的に挨拶し、自分の名前を言う。	Activity 1 (国のあいさつ) Activity2 (みんなとあいさつ) Activity 1 (名刺づくり)
		③	友達と挨拶をし、作成した名刺を交換する。	Listen(あいさつは誰) Activity 2 (名刺交換)
5	ジェスチャーをしよう How are you? I'm happy 等	①	様々な感情や様子を表す語を知り、そのジェスチャーをする。	Listen(ふさわしい表情) Play(いろいろな表情) Play2 (先生の気持ちは?)

(3) 小・中学校の学習内容・教具のつながり

授業を構成する際には、小学校外国語活動で学んだことが、中学校外国語科の学習内容にどのように接続するかを理解しておくことにより、見通しをもった指導ができる。

また、小学校で学んだ内容・言語材料を発展させて、中学校の学習に活用できるようにすることで、児童生徒の学習が深まりのあるものになる。その方法として、次に2点あげる。

- 英語ノートと中学校教科書から、基本的な使用表現・言語材料等の発展をみる。次の表は、英語ノートと中学校英語の教科書のつながりを示した一例である。

小学校 英語ノート1		中学校 NEW HORIZON	
Lesson 1 世界の「こんにちは」を知ろう 小学校では、中学校で学習する単語や表現、コミュニケーション活動を知っておくことが大切です。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な言語での「こんにちは」 Hello / Bonjour / 你好... ・英語で名前の問答 What's your name? / My name is Ken. / ・英語で「さよなら」 Nice to meet you. / Nice to meet you too. 	1年 世界のことで “Hello!” and “Thank you”	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な言語での「こんにちは」と「ありがとう」
		1年 Hello English!	英語であいさつする。 Good morning, everyone
		1年 ようこそ、グリーン先生	あいさつ・自己紹介をする。 Good morning / I'm Emi. / Nice to meet you.
		中学校では、小学校で既習の内容であることを踏まえて指導しましょう。	

- 小学校、中学校に共通の言語材料（使用単語）や教具（単語カード）を使用することで、中学校での学習が深まり、語彙力を身につける一例である。

小学校6年 単元名 仕事はなあに
 ○使用単語 職業に関する単語
 英語ノート2 P62, 63
 ○本日の表現
 What do you want to be?
 I want to be a

○学習活動
 ① フラッシュカードを用いた発音練習
 ② 本日の表現の読みの練習
 ③ 本日の表現の練習(ペア)

中学校2年 LESSON5 Speech-My Dream
 ○使用単語 職業に関する単語
 小学校6年で使用した単語にプラスする。
 ○本日の表現
 What do you want to be?
 I want to be a
 Because

○学習活動
 ① フラッシュカードを用いた発音練習
 ② 本日の表現の読みの練習
 ③ 本日の表現の練習(教員対生徒)
 ④ 自分のなりたい職業等4文を英作文



【小・中学校共通の単語カードを使用した
 鴨川市立長狭小学校・長狭中学校での授業実践】

(4) クラスルーム・イングリッシュ

挨拶や指示、質問、依頼、激励など、英語の授業等で使われる表現をクラスルーム・イングリッシュという。担任がクラスルーム・イングリッシュを用いることにより、外国語活動の雰囲気を作り出すことができる。また、多用することにより、児童が一生懸命に教員の英語を聞こうとする態度を引き出すとともに、英語に慣れ親しむことにもなる。

クラスルーム・イングリッシュを用いる際の留意点としては、

- ① 児童の理解の程度を確かめながら、ゆっくり、はっきりと言うように心がける。
 - ② 一度にたくさんの指示を出さない。
 - ③ 長文で指示することは避け、簡潔な文で児童の理解を確認しながら指示する。
 - ④ 動作を加えたり、絵を描いたりして児童の理解を助ける。
 - ⑤ 日本語を効果的に活用し、指示が児童に正しく伝わるように工夫する。
 - ⑥ 児童の目をしっかり見て言う。
 - ⑦ 指示を出す際には、文頭や文末に「please」を加え、丁寧な言い回しを心がける。
- などが考えられる。

教員の日本語による説明が多いと、児童は、英語を聞き取ろうとする努力をしなくなってしまうので注意しましょう。

小・中学校の合同研修会等で実際の授業で使うクラスルーム・イングリッシュを話し合い、共有し活用することで、円滑な接続を図ることができると思う。

6年生 英語ノート Lesson 1

「アルファベットを探そう」におけるクラスルーム・イングリッシュの例

過程	児童の活動	主なクラスルーム・イングリッシュの例
挨拶	<p>Hello, I'm good. fine. hungry. sleepy.</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>始めは、シートやカードを見ながら行なってもかまいません。</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・席に戻りなさい。(Go back to your seat. / Turn your seat.) ・準備はいいですか。(Are you ready?) ・静かにしなさい。(Be quiet.) ・話を止めなさい。(Stop talking.) ・立ちなさい。(Stand up.) ・気をつけ(Ready.) ・座りなさい。(Sit down.) ・こんにちは。(Hello. Good afternoon.) ・英語の時間です。(It's time for English class.) ・はじめましょう。(Let's begin. / Shall we begin?) ・元気ですか。(How are you? / How are you today?) ・みんないますか。(Is everybody here?) ・今日は何曜日ですか。(What day is it today?) 金曜日です。(It's Friday.) ・今日は何月何日ですか。(What's the date today?) 4月25日です。(It's April twenty-fifth.) ・今日の天気はどうですか。(How's the weather today?) 晴れです。(It's sunny.) <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 200px;"> <p>天気や曜日なども交えながら挨拶を行ないましょう。</p> </div>
導入	<p>【Activity】 英語ノート P4 P5の絵を見て指導者が言うアルファベットの文字を見つけて発表する。</p> <p>ペアでアルファベットの指差し競争をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ノートの4ページを開きなさい。 (Open your English notebook to page 4.) ・この絵のどこに「A」があるでしょう。(Where is "A" in this picture?) ・これをしっかり見なさい。(Look at this carefully.) ・絵を指差しなさい。(Point at the picture.) ・正解です。(That's right.) ・おいしいです。(Not quite. / Close.) ・たいへんよくできました。(Very good. / Good! / Great! / Good job! / Well Done!) ・すばらしい。(Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Super! / Perfect!) ・ペアになりなさい。(Make pairs. / Get into pairs.) ・向かい合いなさい。(Face each other.) ・握手をしなさい。(Shake hands.)

		<ul style="list-style-type: none"> ・相手をかえなさい。(Change partners.) ・質問はありますか。(Do you have any questions?) ・ゲームをしましょう。(Let's play a game.) ・用意, 始め。(Ready, go! / Let's start!) ・ゲームを終わります。(The game is over. / The game is finished.) 	
展開	<p>【Let's Sing】 アルファベット・カードを見ながら一緒に歌う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CDを聞きなさい。(Listen to the CD.) ・CDがちゃんと聞こえますか。(Can you hear the CD all right?) ・この歌を知っていますか。(Do you know this song?) ・歌を歌いましょう。(Let's sing a song.) ・一緒に「アルファベット・ソング」を歌いましょう。 (Let's sing "The Alphabet Song" together.) ・大きな声で歌いなさい。(Sing in a loud voice.) ・拍手しましょう。(Clap your hands.) ・練習しましょう。(Let's practice.) ・恥ずかしがらないで。(Don't be shy.) ・その調子。(Keep it up!) ・はい, どうぞ。(Here you are. / Here you go.) ・私の後について繰り返しなさい。(Repeat after me.) ・すべて片付けなさい。(Put everything away.) ・机を後ろにさげなさい。(Move your desks to the back.) 	<p>小・中で共通したクラスルーム・イングリッシュを使用することにより, 卒業後, 違和感なく中学校英語に入れるように工夫することが大切です。</p>
展開	<p>【Let's Play 1】 グループでカルタ取りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベット・カルタをしましょう。 (Let's play Alphabet Karuta.) ・机の上にカードを広げなさい。(Spread the card out on your desks.) ・私が言うカードを取りなさい。(Try to take the card that I say.) ・私の言うアルファベット・カードを押さなさい。 (Touch the alphabet card that I say.) ・5人組をつくりなさい。(Make groups of five.) ・並びなさい。(Line up.) ・何枚カードが取れましたか。(How many cards are there?) ・何枚カードをもっていますか。(How many cards do you have?) ・カードを数えなさい。(Count your cards.) ・カードを集めなさい。(Collect your cards.) ・がんばりましたね。(You did a good job!) ・おめでとう。(Congratulations!) ・もう一度。(Once more. / One more time. / Try again.) ・間違えても大丈夫ですよ。(It's OK to make mistakes.) ・よくがんばったね。(Nice try! / Good try!) ・手を挙げなさい。(Raise your hand.) ・終わりです。(Time's up. / We're done.) ・やめなさい。(Stop now.) ・引き分けです。(It was a tie.) ・だれが勝ちましたか。(Who won?) ・Aグループに1ポイント。(One point for Group A.) 	<p>励ましの言葉をかけることにより, 児童の意欲が高まってきます。</p>
挨拶	<p>本時の振り返りをする。 挨拶をする。 Good-bye. See you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このワークシートをもっていますか。(Do you have this worksheet?) ・ワークシートに名前を書きなさい。(Write your name on the worksheet.) ・一緒にいしましょう。(Let's say it together.) ・グループで話し合いなさい。(Talk in your group. / Discuss it in groups.) ・今日はこれで終わります。(That's all for today. / We're finished.) ・今日の授業は楽しかったですか。(Did you enjoy today's class?) ・また, 次回会いましょう。(See you next time.) ・良い週末を。(Have a nice weekend.) ・さようなら。(Good-bye everyone.) 	

担任の先生がいい手本となって一生懸命に話している姿が, 児童にとって良い目標となり, 英語を学ぶ励みになります。



(5) 英語ノートを活用

英語ノートは、外国語活動の新設にあたって文部科学省から示された共通教材であり、学習指導要領に基づいた学習内容である。使用を義務付けられてはいるが、各小学校が英語ノートを活用することにより、ほぼ共通の学習ができ、中学校外国語科に円滑に接続することができると思う。

そのために、英語ノートの構成を理解したうえで、英語ノートに記載された活動を学習に取り入れ、1単位時間の授業を構成していくことが大切である。

<英語ノートの構成>

- 英語ノート1, 2ともに、それぞれ9つの Lesson (単元) と3つの Let's Enjoy で構成されている。
- 単元の活動内容は、次の5つの構成に分けて紹介されている。

(Let's Listen)	(Let's Sing)	(Let's Chant)	(Let's Play)	(Activity)
英語 (CD) を聞いて、考えたり、活動したりする。	英語の歌を歌う。動作をつけることもある。	リズムに合わせて言う活動をする。	ゲームを楽しみながら、外国語に親しんだり、コミュニケーションをとる。	名刺を作って交換したり、あいさつしたりいろいろな活動をする。

○ 1時間の授業を構成する

授業を構成する手順の一方法を示す。

- ① 本時のねらいを明確にする。
- ② 当該単元の英語ノートに記載された各活動の内容を理解する。
- ③ 英語ノートに記載の5つの活動 (Let's Listen, Let's Sing, Let's Chant, Let's Play, Activity) を児童の実態等に合わせて組み合わせ、活動にメリハリをつける。
- ④ 活動の内容を「英語ノート」指導資料を参考にしたり、独自に考えたりしながら発展させ、取り入れることもよい。
- ⑤ 挨拶・復習・本時の主となる活動 (展開) ・まとめ (振り返り) ・挨拶のつながりをスムーズにする。
- ⑥ 指導に当たっては、付属のCDや電子黒板用ソフトを活用することができる。



児童の実態に合わせて、必要に応じて工夫しながら活用しましょう。

たくさん外国語に触れる機会を設けるようにしましょう。

歌、チャンツ

英語独特の発音やリズムを体感するのに役立ちます。復習で使うと有効です。

展開や単元のまとめで使える活動

- ・聞いて、体で反応する活動 (聞く)
- ・実物・絵を見せながら紹介する活動 (話す)
- ・インタビュー (聞く, 話す)

(6) ゲームの効果的な利用

① ゲームを行なう際の注意点

ゲームは、小学校外国語活動でよく取り入れられる活動である。ゲームは、児童の学習意欲を高めるだけでなく、発音・語彙・表現等に慣れ親しむための練習の場でもある。ただし、ゲームを行なうねらいがはっきりしていないと、単なる競争に終始してしまい、意味のない活動になってしまう。ゲームを扱うときの注意点は次の通りである。

ア ゲームを行うねらいを明確にする。

ゲームにも、コミュニケーション活動としての一面が求められる。中心となる活動が、外国語を「聞く活動」なのか、「話す活動」なのか、「ドリル活動」なのか、「自由会話」のかなど、具体的な活動目標を明確にする。

イ ゲームに必要な表現を選択する。

ゲームのための表現ではなく、授業の目的・ねらいに沿った実生活に即した場面や表現が選択されていることが大切となる。

ウ 英語でのコミュニケーションを大切にする。

競争意識が強くなると、勝敗に夢中になって、日本語がつい口から出てきてしまう。英語でのコミュニケーションの体験がおろそかになってしまう。ゲームを行なうときは急がず、必要な文脈では、“Excuse me.” “Thank you.” などの表現をしっかりと使わせることが大切となる。また、既習の英語表現 (“Are you ready?” “Hurry up!” “I won!” …) を使いながらゲーム活動を楽しむことが大切である。

② ゲームの基本データを次のア～オの項目で整理して蓄積する。

ア 目的：コミュニケーションの育成なのか、言語や文化についての体験的な理解なのか、外国語の音声や基本的な表現に慣れるためなのか、といった目的を明確にする。

イ 形態：個人・ペア・グループといったゲーム形態を示す。

ウ 内容：他教科と関連するトピックか、児童の生活に関連するトピックか、使用する表現及び語彙はどれか、といった内容を明確にする。

エ 対象：何学年か、児童の実態にあっているか、といった対象を示す。

オ 必要な教材教具：どのような教具、教室の準備が必要か、といった設備・教具等を示す。

③ 具体的なゲーム活動の例

ア 「聞くこと」を中心としたゲーム

(ア) フルーツバスケット

「果物カード」を首からさげ、自分のカードに描かれた果物を言われたら立ち上がって移動する椅子取りゲーム。

「動物」「文房具」「色」「形」などのカードを活用してもできる。

(イ) カルタ取り

「動物カード」「食べ物カード」「昆虫カード」などの絵カードを用意し、4～5人のグループをつくり、教員が言ったカードを取らせる。

(ウ) ハエたたきゲーム

黒板に食べ物や動物、文房具などの絵カードを貼る。グループごとに列になって並び、教員が言ったカードを見つけ、ハエたたきなどを使ってタッチさせる。グループ対抗で行なうと盛り上がる。

(エ) ビンゴゲーム

児童一人一人に5×5の25マスに1～25までの数字を書き、ビンゴカードを作らせる。
教員は英語で数字を言っていく。

(オ) スリーヒントゲーム

教員が3つのヒントを出し、それが何かを当てるゲーム。

- ① I am black and white. ② I am from China. ③ I like bamboo leaves.
⇒ Panda

(カ) サイモンセズ

教員が出す様々な命令 (Touch your head. Touch shoulders. Turn around.) などの前に、(Simon says. サイモンさんの命令) という言葉を付けたときだけ、児童はその命令に従う。

少しずつテンポを速めたり、教員が時々命令の動作と違った動作を入れると、注意して指示に耳を傾けるようになる。

イ 「話すこと」を中心としたゲーム

(ア) ジャンケン陣取りゲーム

黒板に10枚程度の絵カードを横一列に貼る。2チームの対抗とし、右側と左側から同時にスタートし、絵カードにタッチしながら絵のことがらを発音し、出合ったところでジャンケンをする。勝った方はそのまま進み、負けた方は2人目がスタートする。相手側に早く着いた方が勝ちとなる。

(イ) ナンバーコールゲーム

10人以下の人数で行なう。一人に1つずつ数字を割り当てる。4拍子のリズムで手拍子を取りながら、(1の児童=パン・パン・1・7) ⇒ (7の児童=パン・パン・7・3) ⇒ (3の児童=パン・パン・3・5)・・・と繰り返していく。

(ウ) Don't say 21

2～3人組で行なう。一人が3つ以内の連続した数字を言っていき、21を言った人が負けとなるゲーム。

One. Two. →Three. Four. →Six. Seven. Eight. →Nine.・・・と言っていき、Twenty one. と言った人が負けとなる。

(エ) 伝言ゲーム

聞いた内容を列ごとに伝えていくゲーム。会話形式

「Do you like dogs?— Yes, I do. / No, I don't.」

「What sport do you like? —I like ～.」や

「Touch your head.」という指示を列の一番後ろの児童まで伝えて、最後の児童が回答したり行動で反応したりするゲーム。

【旭市立三川小学校の実践事例】



それぞれのゲームは、教員が児童の実態に合わせて改善することで、より意味のある活動となる。単に児童が喜ぶような楽しい活動だけを行うのではなく、活動のねらいを明確にして、様々な相手と互いの思いを伝え合い、コミュニケーションを図ることの楽しさを体験させることが中学校へつながるゲームとなる。

中学校は、外国語活動で行われているゲーム活動を理解することが重要である。

(7) 聞く・話す力を育てるALTや地域人材の活用

県内の多くの小学校にALTが配置されている。小・中の円滑な接続について考えたとき、小学校外国語活動では、「聞く」「話す」など小学校でのねらいを十分に達成することが大切である。そのためには、充実した学習指導が必要であり、ALTや地域人材の活用は効果的である。

① ALTと地域人材を活用した授業例

5年「今まで学習してきたことをもとにフェスティバルを開こう！」

本時2/6 学年合同授業 ALT1名 学習協力者8名

過程 (時配)	児童の活動	学級担任の活動㊸・ALTの活動㊹・学習協力者の活動㊺	指導・支援 ○児童 ●学習協力者 ☆評価
Greetings & Warm-up (3)	1 担任・ALT・学習協力者と挨拶をする。 Hello. How are you? I'm fine / happy/ ... How is the weather? It's sunny / cloudy / rainy / ... What day is today? It's Wednesday. What the date today? Today is February, third.	㊸㊹ 交互に学年全体の児童と学習協力者に挨拶をする。	○緊張した雰囲気にならないよう明るく声をかける。 ○全体で挨拶する他に、個々に答えた児童を称賛する。 ●児童と一緒に挨拶をしてもらう。
Activity (25)	4 グループに分かれて英語フェスティバルの準備の続きをする。 ○ルールを説明するために使う言葉や実際にゲームをしている間に使う言葉を日本語で書き出す。 サイモンセズ・ゲームグループ すごろくゲームグループ スリー・ヒント・ゲームグループ ビンゴ・ゲームグループ 陣取りゲームグループ ミッシング・ゲームグループ	㊸各担当のグループに入って児童が使う言葉の補助をしたり話し合いがスムーズにいくように助言する。 ㊹担任と協力してグループをまわりながら、進行に使う言葉をジェスチャーや表情で豊かに表現するよう助言する。 ㊸ALTと協力しながらグループをまわり、進行や場面の想定の状態を確認する。 ㊹㊺お客さんの立場に立ってはっきりとした声で分かりやすく表現するよう助言する。 ㊸㊹難しい表現は日本語で構わないが、なるべく英語を使ってみるよう励ます。多少違って、相手に伝えたい気持ちを強くもつことが大切であることを繰り返し伝える。	○前時に決まったゲームのルールを紙に書き出しておき、話し合いの参考にさせる。 事前の打ち合わせで資料を用意すると支援しやすいです。 ●あらかじめ渡してあるクラスルーム・イングリッシュを参考に児童が使える「英語の指示」について助言するよう確認する。 ○グループで使おうと決まった表現を学習協力者に支援してもらいながら記録しておけるよう用紙を用意する。 ○表現することに自信を持たせるよう、個々に励ます。 ☆互いに協力して、伝えたいことをどんな英語やジェスチャーで伝えればよいかを考え、表現しようとしている。(行動観察)
Consolidation (10)	5 学年全部で集まり、めあてに沿って今日の活動を振り返る。 ○自分たちの活動の状況やがんばった点をみんなに報告する。 6 次時の学習について話し合う。	㊸学年全部で集まる前に、グループの児童の活動を称賛する。 ㊹㊺積極的に英語を話そうとした児童や活動の様子を称賛する。 充実感と次への意欲につながります。 ㊸次時の学習に意欲を持たせるようにする。	●英語を話せたかどうかよりも一人一人のがんばりをほめてもらう。 ○児童や学習協力者の発言を、それぞれのグループの励みになるように支援する。 ○うまく進んだことだけでなく次回にがんばりたいことも言うように働きかける。 ○次時は実際に役割を分担しながら...

各グループに学習協力者が入ることで、児童一人一人が話したり聞いたりする機会が増えるとともに、きめ細かな対応が可能になります。

ALTが全体をまわり支援するように計画します。

充実感と次への意欲につながります。

② 地域人材（学習協力者）活用の留意点

人材活用の流れ（留意事項）

授業の構想

- ・指導計画への位置付けを行う。
- ・役割をあらかじめ想定しておく。



人材の募集

- ・何を協力してほしいのかを明確にする。
- ・ホームページ、文書、電話等で依頼する。
- ・保護者、地域住民、大学生、留学生など。



打ち合わせ

- ・学習のねらいをわかりやすく伝える。
- ・学習の流れや、役割について具体的に話し合う。「おまかせ」は避ける。



授業

- ・教員は全体を見回し、状況確認を行う。
- ・授業の進行や計画の修正等については、教員が責任をもって行う。
- ・スムーズに進んでいない状況が確認されたら、修正や支援をし、目標が達成されるよう努める。協力者との確認が必要な場合には、適宜行う。



事後

- ・アンケートや意見交換を行う。
- ・結果を次回に生かすようにする。

依頼文（概要）

第5学年保護者様 ○月○日
学習協力者（英語ボランティア）のお願い
校長名、担任名

日頃より本校の・・・
挨拶、趣旨、協力をお願い
記

1日時 ○月○日（○曜日）
2場所 本校○○室
3内容 簡単な英語を使って、児童と会話しながらすごろくを
行っていただきます。児童が活発に活動できるように
主に英語で支援してください。

4その他 ○月○日打ち合わせを行います。

○月○日の授業に学習協力者として参加できます。

氏名

打ち合わせ資料（部分）

助言のポイント

すごろくゲームの各マス指令のねらいは次のとおりです。児童が
しっかりとと言えるようご支援・ご助言ください。
☆好き（嫌い）なものを言う（聞く）→I like ~ I don't like ~

マス 1 好きな動物の名前を英語で言おう！ ヒントカード有り
マス 11 好きなくだものを英語で言おう！ ヒントカード有り

つづく
⋮
⋮

ポイント

- ・外国語活動の趣旨を理解してもらったうえで、支援を得ることが大切である。
- ・人材活用に対する計画立案と共通理解を図り、全校体制で取り組むことが重要である。また、事故等への備えも考慮しておく必要がある。
- ・協力者が教員や児童と接する喜びや有用感をもつことが、継続した取組につながる。児童の変容や感想などを伝えることも大切である。
- ・英語に堪能だけでなく、外国の文化や生活に明るい方も多いので協力を求めたい。
- ・ALTと地域人材（学習協力者）が一緒に加わる場合には、あらかじめ、役割等について考慮しておくことが大切である。

(8) ICTの活用

小学校外国語活動の授業を行うにあたり、ICT（Information and Communication Technology）を活用することには、以下のような効果と課題があると考ええる。

○ICT活用における効果

児童の意欲・関心の高まり：授業中に視聴覚機器やコンピュータを活用することは、外国語活動に限らず、どの教科においても児童の興味・関心を喚起し、意欲的に取り組むことができる。

児童の聞く力を伸ばす：音声だけでなく視覚からの情報により、音声だけで提示するより具体的にコミュニケーションの場面が理解でき、その表現について興味・関心をもつことができる。また、聞き取りが苦手な児童でも映像を見ることにより、聞き取れる範囲が広がっていき「聞く」力を伸ばすことが可能となる。

児童の発声を良くする：配布された印刷物などを見ていては、児童の視線は下にいってしまう。しかし、映像等を映し出すことで、児童の視線が上がり、指導する教員にも視線が集まることとなる。このことにより、児童の発声はより大きくなる。

ネイティブな音声を聞かせる：ALT不在の授業においてもネイティブ・スピーカーの発音を聞かせることができる。発音の練習には、ALTの協力を得て発音する姿を映像で流せば、口の動きなども見ることができ、効果が上がる。

教材を手軽に提示できる：文字を介さない外国語活動においては、語句や表現について、児童に視覚からの情報や体験などから理解させることが求められる。動作であれば教員のジェスチャーで示すことができるが、具体的な物を提示しなければならない場合は、実物を提示することが困難な場合や、手間がかかる場合もある。このような場合も、ICT機器を活用することにより、より手軽にタイミングよく提示することが可能となる。

英語ノート・デジタル版と電子黒板の活用：英語ノートの活用にあたり、デジタル版は、画面と音声を一体化した教材で、簡単な操作で音声を流し画像を動かすことができる。特に電子黒板と併用すれば、コンピュータをいちいち操作することなく、画面での操作、書き込みが可能であることから、効率よく授業を行うことができる。

○ICT活用における課題

ICT機器への依存：外国語活動のメインはコミュニケーションである。ICT機器の不調により授業が実施できなくなるようなICT機器依存の授業に陥らないよう、授業のすべての活動でのICT機器の使用は避け、適切な活用を心がけなければならない。

教員の苦手意識の克服：教員の中には、まだまだICT機器活用について苦手意識が先行してしまう方もいる。ICT機器については、本来どの教科領域においても活用を進めるべきものであり、操作方法も簡単になってきている。操作方法の習得はもとより、ICT機器活用能力を高めて効果的な授業展開ができるよう研修を進める必要がある。

【ICT活用の実践事例】

英語ノート・デジタル版を活用した歌
“Ten Steps”の実施風景
(茂原市立茂原小学校)



ビデオ資料を使用したプレゼンテーション
日本文化の紹介
(旭市立三川小学校)



(9) 評価の工夫

外国語活動のねらいの達成状況を評価していくためには、「評価の観点」「評価規準」「評価方法」を明確にする必要がある。各学校においては、評価規準や評価方法を設定する際に、外国語活動のねらいを明確にするとともに、児童の学習意欲を高めるような工夫が求められる。

① 評価の観点

「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(文部科学省 平成 22 年 5 月 11 日付)により、小学校外国語活動の目標の 3 つの柱を基に以下にあげる 3 つの評価の観点が例示された。

- ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- イ 外国語への慣れ親しみ
- ウ 言語や文化に関する気付き

これを参考にして、設置者が各観点を設定することになる。各観点の設定を設置者が行うこととしたのは、学習指導要領に沿った学習内容を各学校が共通に指導し、中・高等学校の外国語科への円滑な接続を図ることに配慮する必要があるためである。ただし、各学校における観点をこれに追加して評価することも可能である。また、評価を記載する際は、観点別に文章記述による評価を行う。

② 評価規準の設定

評価規準を設定するには、各単元の目標を定め、それに基づき規準を設定する。そして、各単元の指導計画の中に 1 単位時間ごとの具体的な目標とそれに合わせた評価規準を設定する。各時間の評価規準については、主として授業中の観察等で見取れる児童の具体的な姿を設定する。

③ 評価方法

外国語活動は、音声中心の活動であることから、教員による「行動観察」「発表観察」「成果物の確認」が主な評価方法となる。児童の学習意欲を高めるためには、児童が自分の学習成果や変容を知り、達成感を味わいながら学習を進められるよう自己評価や相互評価などを取り入れることも有効であると考えられる。

また、外国語活動については、数値での評価は適さず、文章による評価とされていることから、授業中の態度や活動状況・児童の変容について文章表記する。なお、授業において補助的に文字を扱った場合、文字に対する興味・関心や外国語に対する慣れ親しみは評価できても、文字の習得を評価することは不適切である。

○評価方法の例

- ・児童の様子や発言の様子(観察による見取り)
- ・作品(検証)
- ・児童の振り返り(自己評価)
- ・英語ノート等の記入(確認)

【評価規準と評価方法の例】

学習活動・内容	観点	評価規準	評価方法
世界には、様々な衣服があることを知るとともに、衣服の言い方を知る。	ウ	指導者の話を興味を持って聞き、様々な衣服の言い方を理解しようとしている。	行動観察
好みをはっきり言ったり、相手が気持ちよく買い物ができるように声をかける。	ア	1対1で質問された際に、自分の思いを伝えようとしている。	行動観察

【自己評価の実践事例】振り返りカードの活用（旭市立三川小学校）

授業で、児童の自己評価や相互評価を適宜行うことにより、その時間の学習のねらいがどのくらい達成できたか、また、どのようなことを感じたかなどをつかむことができ、次時の学習につながる。

- 変容を児童自身が視覚的に捉えることができ、活動全体が見通せる。
- 次回への意欲化が図れる。
- 観点は、教員が意識して活動をして欲しい点と課題にあった観点を設定する。あわせて児童自身が学習活動を考えたためあてを記入する。

「日本文化を紹介しよう」		名前 ○○○○	
	①	②	③
活 動	日本文化について考えよう	日本文化について調べよう	日本文化紹介の準備をしよう
今日のめあて
友達と話し合い やりとりをしよう	◎ ● ○ ● △ ●	●	●
協力をしよう	◎ ● ○ ● △ ●	●	●
感想・反省

【学習成果の記録の例】

何を学習したか、それに対する取組はどうであったか等について、児童が自己評価の記録を残すことで、学習内容を確認し、自分の変容を知ることができる。

- 学習内容ごとに最終的な評価を記入し、学習に対する達成感を視覚的に感じることができる。
- 教員にとっても中学校との接続時の資料として役立つ！

○○市立○○小学校 外国語活動の時間をふりかえって(5年生)		名前 ○○○○				
単元	学習の内容	◎よくできた ○できた △あまりできなかった				
		きょう味を もって取り 組めた	みんなとき よう力して 活動できた	英語で話さ れたことが わかった	英語で伝え ることがで きた
1 英語で あいさつ する	① 世界のあいさつを知る	◎	◎	○	○	
	② あいさつして、自分の名前を言う	◎	○	△	△	
	③ 友達とあいさつして名しを交かんする	◎	◎	△	△	
2 ジェス チャーを する	① 感情や様子をあらわす語とジェスチャー	○	○	○	○	
	② ジェスチャーをつけて思いを伝える	○	○	○	○	
	③ ジェスチャーをつけてあいさつする	○	○	◎	◎	
	④ 感情や様子をジェスチャーをつけて伝える	○	○	◎	◎	
9 ランチ メニューを つくる	① 日本と外国の朝食のちがいを知る	◎	△	○	○	
	② 食べ物や料理をあらわす言葉を知る	○	○	○	○	
	③ ていねいな表現を使う	△	△	△	△	
	④ グループでオリジナルメニューを作り発表する	○	◎	○	◎	

(10) 外国語活動の環境整備

外国語活動の実施及び中学校外国語科への円滑な接続において、児童を取り巻く学習環境の整備は重要な要素である。校内組織及び中学校や近隣小学校との連携組織の整備とともに、全校体制で学習環境づくりに取り組んでいく必要がある。

① 教材教具の整備

外国語活動を行う上で、教材教具の整備は不可欠である。読み聞かせのための絵本や単語カードなどの教材教具が必要となる。ただし既成の教材教具では、自校のカリキュラムに十分対応できていない場合や、経費的に取り揃えることが不可能な場合もある。このような場合は、手作りの教材教具に取り組むことになるが、外国語活動担当者個人の負担にならないよう、研修を兼ねて全校で取り組む必要がある。また、作成した教材教具は整理して保管し、年々充実させていくように心がけるべきである。さらに、中学校への円滑な接続を考えると、近隣校との教材教具の共有はもとより、中学校とも教材教具を共有し、小学校で触れた表現等を扱う単元の導入時などに使用することは有効である。

【教材教具の実践事例】



すぐ使用できるように
整理された単語カード
(茂原市立茂原小学校)

単語カードとメトロノーム
を使用した単語の発音練習
(鴨川市立長狭小学校)



② 英語や外国の文化があふれる環境づくり

ア 外国語活動の展示コーナーの設置

外国語活動を行う際、児童に英語に触れる環境づくりを行うことが大切である。学校の施設に余裕があれば専用の学習室を設けることが望まれるが、無理な場合でも教室の一部に専用コーナーを設け、世界地図や各国の国旗、海外の文化の紹介の掲示を行うなど外国語活動への興味・関心を高めることが重要である。

イ 外国の生活・習慣を意識した授業

授業の開始を「起立、気をつけ、礼」で始めることは外国の文化を知る上で好ましくない。英語圏では、挨拶でお辞儀する習慣はなく、堂々と胸を張って挨拶する。外国語活動は、外国の文化を知ることも重要な目的であることから、英語の挨拶で授業を始めることは、授業の雰囲気づくりには欠かせない。

また、音声については ALT 等の人材や DVD 等の機器を活用して、児童にネイティブな発音を聞かせるべきであるが、日本人指導者も積極的にクラスルーム・イングリッシュを使用して授業を行うべきである。授業時間中のやり取りは全てコミュニケーションの一環であり、教員が積極的に英語で伝える姿は、児童が積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことにつながる。ただし、児童の発達段階等に合わせて、理解が不十分な部分や重要事項を補うためには、日本語の使用はやむを得ない。

ウ 無理なく文字に触れる環境づくり

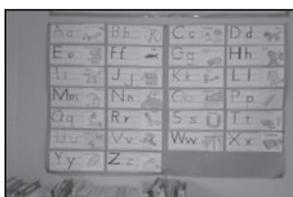
外国語活動における文字指導はアルファベットを聞いて、どの文字が認識できる程度までが指導目標である。無理なく児童が文字を認識し、文字を使用したいという意欲をもって中学校外国語科に接続できるよう校内の掲示物等を使って、自然に児童の目に触れ理解を促す環境づくりも大切である。この掲示物は、既成の適切な掲示物や、教員の研修の一環として作成したもの、児童の活動の一環として作成した成果物などが考えられる。このような校内における環境整備も外国語活動の雰囲気づくりには欠かせない要素である。

ただし、アルファベットの綴りと音の指導は、そのルールが複雑で児童に過重な負担となり、早期の英語嫌いにつながることから避けるべきである。

【掲示物による雰囲気づくりの実践事例】

左から「アルファベット」「体の部位」「形と色」
「季節をテーマにした言葉の紹介」

(旭市立三川小学校)



③ 中学校外国語科への円滑な接続にふさわしい授業環境

外国語活動の導入時期や活動内容によっては、机や椅子がなく歌やダンス、ゲームなどの活動を行いやすい授業環境が適切な場合がある。しかし、中学校外国語科への円滑な接続を考えれば、机と椅子を使用した教室で授業を実施し、ペア・ワークやグループ・ワークの際には机を移動して行うようなスタイルに移行していきたい。「外国語活動は楽しくなければならない」ということは、ゲームや歌などの活動を中心とした内容に終始することではなく、児童の発達の段階に合わせて、知的好奇心を刺激して学習意欲を喚起するような指導方法を工夫することであることに留意したい。

また、前述したクラスルーム・イングリッシュを使用して指導することも中学校以降の外国語学習への円滑な接続を図る上で重要な授業環境の一部である。

【学習の場づくりの実践事例】



机・椅子のない動きやすい環境での
インタビュー活動の授業展開
(旭市立三川小学校)

机・椅子のある環境でのグループ・
ワークの授業展開
(茂原市立茂原小学校)



(11) 望ましい小学校外国語活動

児童が積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するに、外国語活動を通して自分を表現できる経験をもつことが大切である。また、中学校外国語科との円滑な接続を意図した指導が必要である。そのための小学校外国語活動の基本的な進め方を示す。

① 指導内容

- ・外国語の発音やリズムに慣れ親しませることができるように、英語ノート等を活用し外国語を話したり、聞いたりする活動の内容を構成する。
- ・音声面を中心とし、アルファベットなどの文字や単語の取扱いは、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる。
- ・小・中学校が連携して、年間指導計画、指導内容や教材を作成することにより、学習のつながりと深まりを図る。

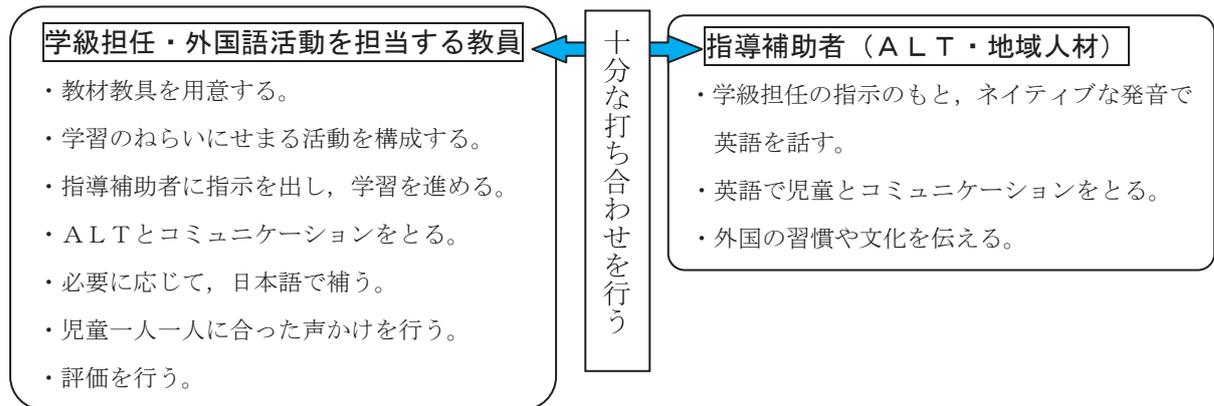
アルファベットを書いたり、口型図を見せて、個別の発音指導をすることを求めています。



② 指導方法

・指導者・指導補助者

学級担任または外国語活動を担当する教員が中心となり授業を進める。ALTや外国語に堪能な地域人材は、あくまでも補助者であり、役割を明確にすべきである。



・1時間の授業構成

児童が学習の見通しもち、主体的に学習するためには、学習過程を明確にしたり、学習課題（問題）を提示したりすることが重要である。

- ① 挨拶－復習－展開（学習課題－主活動）－まとめ（振り返り）－挨拶
- ② Warm up - Presentation - Activity - Wrap up

・学習活動

外国語でのコミュニケーションを体験させる際には、英語ノート等を参考に児童にとって身近な場面を設定した活動を取り入れることが望ましい。

③ 校内の環境整備

校内の掲示物を工夫したり、地域に住む外国人や外国語に堪能な方を招いたりすることで、外国の文化を知ったり、外国語に自然と慣れたりすることができる。

【1 単位時間の外国語活動の展開（5年生の例）】

英語ノートに記載されている活動を組み合わせましょう。
活動をアレンジして、質を高めることも大切です。

指導者とALTの役割
を明確にしましょう。

過程	児童の活動	学級担任の活動	ALTの活動	●指導上の留意点 ◎評価規準<方法>	教材 教具
挨拶	1 ジェスチャーをつけて挨拶をする。 Hello, I'm fine / happy / hungry/ sleepy.	・全体に挨拶する。 Hello, how are you?	・全体に挨拶した後、数名を指名し、挨拶する。 Hello, how are you?	●英語で元気よく挨拶を交わすことにより外国語活動の始まりを意識させる。	
復習 展開	2 【Let's Sing】 ♪Ten Steps♪ ♪Twenty Step♪ を様々な歌い方で歌う。	Let's sing a song. ・ジェスチャーをつけたり、決められた数字の代わりに手をたたいたりするなど、歌い方を指示しながら歌う。		●電子黒板の映像を見せることで、大きなジェスチャーができるようにする。	DVD 電子黒板
	3 本時の学習のめあてを確認する。 数のゲームを友達となかよくやろう。				
	4 【Let's Play 1】 ・キーナンバーゲームをする。 5 【Let's Play 2】 ・おはじきゲームをやる。	Let's play a game. ・キーナンバーゲームのやり方を説明する。 ・児童のグループに入り、答え方をデモンストレーション	・単語を英語で発音し、児童に復唱させる。 ・おはじきゲームのやり方を説明する。 ・グループの獲得ポイントを確認し称賛する。	【略】 ◎積極的に英語を話したり、聞いたりしてコミュニケーションを図りながらゲームに参加している。 <行動観察> 【略】	絵カード おはじき
まとめ	6 振り返りをする。	・児童の英語を使おうとする態度面についてよかったところを話す。			振り返りカード
挨拶	7 挨拶をする。	Thank you. Good-bye.			

英語での挨拶や説明、指示をしてみましょう。
(クラスルーム・イングリッシュ)

ICTやデジタル教材
を有効に活用しましょう。

本時のめあてや見通しをもたせ、
学習を進めましょう。

ゲームの楽しさを通し、「英語で話すこと
や聞くことの楽しさ」を感じられることが大切です。

達成感や自己の変容を振り返り、
外国語活動への意欲を高めましょう。

Ⅳ 児童が外国語に興味を持ち、学び続けるために

小学校外国語活動を効果的に進め、中学校外国語科への円滑な接続を図るためには、児童の外国語活動に対する意識を高め、意欲的に取り組む態度の育成が求められる。

1 児童の学習を支援する環境・体制の整備

外国語活動に取り組むために、全教員の協働による校内体制を整備することはもとより、市内もしくは、同じ中学校の学区内の小学校や中学校との連携を進めていくなど取組体制を構築し、研修の充実を図っていくことが求められる。また、家庭や地域に対して外国語活動に対する理解と協力を得て、校外からも児童の学習を支援する環境・体制を整えていく。このような児童を取り巻く学習環境づくりが、児童の意識を高め、中学校外国語科への円滑な接続を支える土台となる。

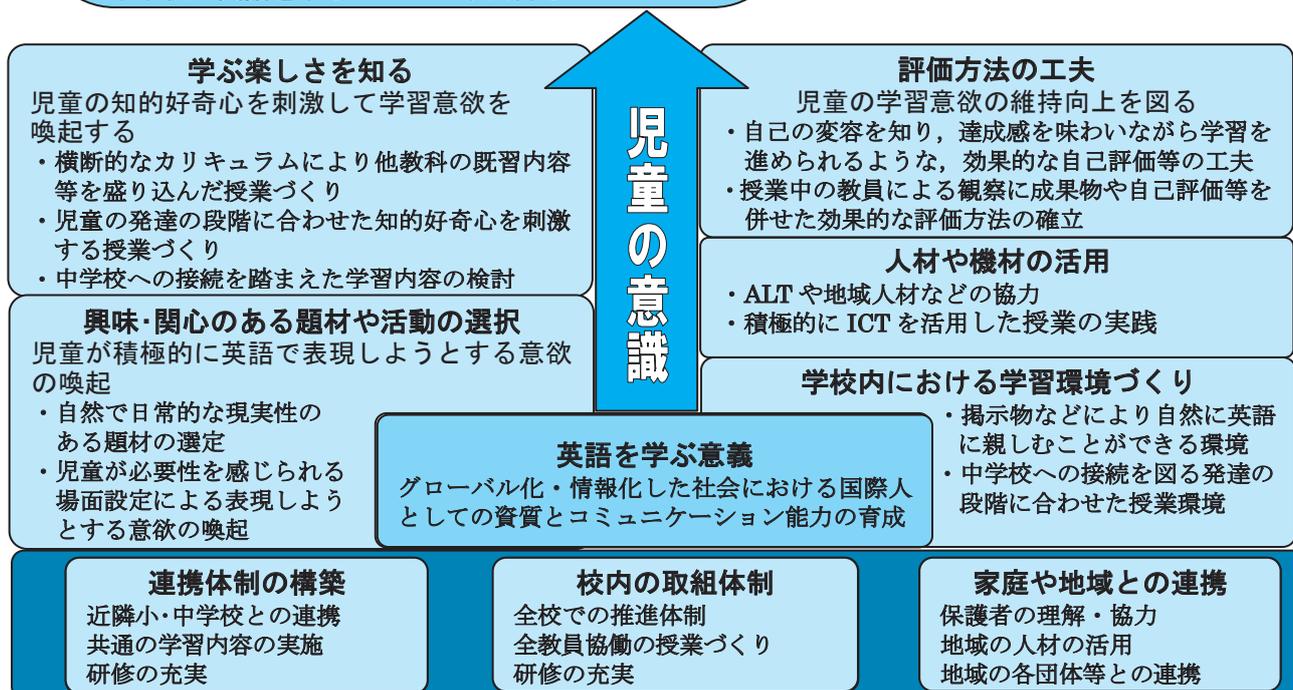
2 児童の意識の向上を意図した指導

まず、なぜ英語を学ぶのかという意義を明確に示し学習の動機付けをしっかりと行う必要がある。これが、児童の学習に対する意識の基礎となるものである。また、児童の興味・関心のある題材・活動や発達の段階を考慮した表現を選定し、積極的なコミュニケーションが図れるような授業づくりとネイティブ・スピーカーや地域人材の活用による指導体制の充実、ICT機器の活用など、児童の学習意欲の向上を図ることが大切である。

そして、児童の発達の段階に合わせて、他教科の既習内容や知識などを活用し、英語を通して思考するような授業を展開することにより、児童の知的好奇心を刺激し、英語を学ぶ楽しさを味わう工夫が求められる。さらに、児童の学習意欲を持続するために、児童が達成感を味わうとともに自己の変容を自覚できるような評価方法の工夫をしていかなければならない。加えて、校内や教室などを英語に親しむ環境を整えるとともに、授業環境についても児童の発達の段階に合わせて変えていく配慮が求められる。

- ・英語が好きという気持ち
- ・英語を話したい、聞きたい、伝えたいという気持ち
- ・外国の文化について、もっと知りたいという気持ち
- ・中学校で英語を学びたいという気持ち

中学校外国語科への円滑な接続



【資料】円滑な接続のためのチェック表（例）

（対象：小学校担当者・管理職用）

※該当欄に○を付けて、達成状況を確認しましょう。

【A：十分達成している B：概ね達成している C：少し達成している D：ほとんど達成していない】

チェック項目		評価			
		A	B	C	D
自校の取組体制	1 学校教育目標の具現化の視点から外国語活動に関する重点目標が設定されている。				
	2 全体研修計画に外国語活動の研修内容を位置付けている。				
	3 全教員協働による授業づくりの体制ができている。				
	4 外国語活動のねらいや学習の進め方などを児童に説明している。				
	5 保護者や地域に外国語活動の趣旨や指導方針を説明し、理解と協力を得ている。				
	6 外国語活動担当者とALT・地域人材の打合せ時間を確保し、役割を明確にしている。				
組連 組織携	7 小学校間で連携組織（連絡会等）をつくっている。				
	8 小・中学校間で連携組織（連絡会等）をつくっている。				
連携を重視した研修の充実	9 小学校間で各学校の外国語活動の取組状況等について情報交換をしている。				
	10 小・中学校間で外国語活動と外国語科の目標や内容等について相互理解が図られている。				
	11 中学校との接続を意識した外国語活動の年間活動計画が作成されている。				
	12 小学校間で、相互授業参観や授業研究会等を行っている。				
	13 小・中学校間で、相互授業参観や授業研究会等を行っている。				
	14 小・中学校間で、授業協力等の教員相互の交流を行っている。				
指導法の改善	15 英語ノートと英語の教科書のつながりを理解している。				
	16 英語ノートを活用しながら、指導の工夫・改善を図っている。				
	17 ゲームを行うねらいを明確にして、効果的なゲーム活動を行っている。				
	18 ALTや地域人材を効果的に活用している。				
	19 ICTを効果的に活用している。				
	20 評価の観点、評価規準を設定し、評価方法を工夫している。				
	21 小・中学校共通のクラスルーム・イングリッシュを選定し、活用している。				
22 他の小学校や中学校と共通した教材を開発し、使用するよう努めている。					
環境整備	23 参考図書や指導資料が活用しやすく整備されている。				
	24 外国語活動の掲示コーナーを工夫し、学習に対する興味・関心を高める環境づくりに努めている。				
	25 児童の発達の段階にあった授業環境の整備に努めている。				

※このチェック表は、主に自校と同一中学校区での取組についてまとめたものです。

資料提供校（50音順）

〈小学校〉

旭市立三川小学校

我孫子市立並木小学校

市原市立市東第一小学校

大網白里町立白里小学校

勝浦市立清海小学校

佐倉市立白銀小学校

富里市立七栄小学校

習志野市立袖ヶ浦西小学校

茂原市立茂原小学校

〈小中一貫校〉

鴨川市立長狭小学校・長狭中学校（長狭学園）

〈中学校〉

旭市立飯岡中学校

我孫子市立久寺家中学校

市原市立市東中学校

習志野市立第三中学校

茂原市立茂原中学校



みんなで取り組む
千葉の教育

中学校外国語科との円滑な接続を図る小学校外国語活動

平成 23 年 3 月

発行：千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 2-13

TEL 043-276-1166

FAX 043-272-5128

ホームページアドレス <http://www.ice.or.jp/~i-kaihatu/>

この冊子は再生紙を使用しています。